

編 集 後 記

◎大屋氏のロシア語翻訳により、鉄のカーテン内の水産関係の模様が直接我々に解るようになったことは時局がら大いなる喜びです。特に北海道にいるわれわれはいろいろな関係で好むと好まざるとに拘らずソ連を理解する切実さを味わっております。かような時勢において、はわれわれの職員の中にロシア語に豊かなる才能を示された大屋氏のおられることは、われわれの期待を満足させるものと思います。

◎佐野氏の訳された立体孵化器については、大いに参考となるものと考えます。アメリカではすでに実化用され、わずかな面積で多大の効果を挙げているとのこと。国土の狭いわが国では大いに利用すべきものと思います。

◎企画課資料係で孵化事業史の編算が計画さ

れており、その史料の一部が秋庭氏によって始めてここに孵化場の『創生記』的な記事となつて載せることが出来ました。続いて U. S. Treat の手紙は孵化場の誕生を暗示させるに充分なものと思います。この手紙は現在北大に保管され、ペン字のひどいくせのある筆跡のため、解説するのに非常な努力と時間がかかつたということです。

◎従来、魚と卵がいささか固苦しいとの批判があつたので、今回編集には見出しとカットに充分気をくばり、出来るだけ感じを柔げてみました。

◎低温続きだつた今年もついに夏が来ました。只今、編集部では9月に3号を出すべく準備を進めております。

『魚と卵』編集委員

さけ・ます・ふ化場

農林事務官

秋庭 鉄之

農林技官

佐々木 正夫

道立水産孵化場

長 沢 有 晃

技術吏員

大 東 信 一

大 屋 善 延

昭和三十一年七月二十日印刷
昭和三十一年七月三十日発行

発 行

札幌市外中の島
北海道さけ・ます・ふ化場
北海道立水産孵化場

場 長 荒 井 定 治

印刷

札幌市南一条東四丁目
中西写真製版印刷株式会社